

# ひかりのこ

12月園便り

認定こども園  
聖ミカエル幼稚園  
2020年11月13日

月主題：喜びにあふれて

「絵本の読み聞かせは子どもの心を育てる」

11月7日(土)、札幌市中央図書館で、小・中・高生の札幌市読書感想文コンクールの表彰式があり、私も役員として参加しました。

毎年夏休み、私は卒園したお子さんに声をかけ、この読書感想文の指導を行っています。本来なら、各小学校で授業の中でできるといいのですが、指導時間の制限や、たくさんの指導内容の中で、学校がその時間を見出すこと難しいだろうと思い、数年前から声かけをしています。そして、嬉しいことに、このところ毎年子どもたちが盾をいただく上位の賞に入選しております。

2018年度は3年生の女兒、2019年度には5年生の女兒、そして今年も5年生の女兒が入選しました。それぞれ違うお子さんです。今年もそれだけでなく、優良賞に1年生女兒、佳作に2年生女兒が2名、男児が1名、合計5名のお子さんが入賞しました。応募作品300点以上の中、入賞した小学生40人のうちの5名、というのはとても素晴らしいことです。

読書感想文は、本を読んで、考えて、文章を整えて書く、というとても時間のかかる大変なものです。特に読んだ本の内容を自分の生活に照らし合わせていくという「考える」という作業がとても大変です。

ミカエルの子どもたちには、どうしてこの力が育っているのでしょうか。それは、幼稚園で、そしてご家庭で、先生やお父さんやお母さんの温かい声で、毎日毎日絵本を読み聞かせた成果なのではないか、と考えます。

幼児期に、温かな声でたくさん絵本を読んでもらった子どもたちの心は、確実に育っていきます。「心」というと具体性に欠けるかもしれませんが、一番には「想像する力」が育つのではないかと思います。安心できるゆったりした声に包まれて、子どもたちはのびのびと考え、想像し、それを自分の生活に当てはめていきます。もちろん文字も覚えますし、世の中の言葉にも出会って

いきます。

この聖ミカエル幼稚園で、たくさんの絵本に出会い、たくさんの大人に本を読んでもらって、子どもたちが豊かに心を育ててほしいと願っています。

(3年間の上位作品をお配りいたします。)

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

「感動は人を作る」

コロナ禍で教会の礼拝が大きく変わったことの一つは、聖歌（讃美歌）を十分に歌えなくなったことです。今は礼拝の最後に一つだけ、しかも3番までを小さな声で歌っています。教会と音楽は古くから切っても切れない関係で、音楽は教会を美しく装い、人々は信仰をメロディーにのせて表現してきました。私が最初に教会音楽に触れたのは、ミッションスクールだった大学のチャペルで行われた入学式でした。生まれて初めて聞くパイプオルガンの清らかで荘厳な音に打ちのめされ、讃美歌の綺麗な旋律と、神聖な歌詞に心を打たれました。こんな近くに、こんな音楽を奏でる場所があったのかという驚き、そして、もっと早くこの音楽に触れたかったという無念。そこで私は、今さらながら、自分は何も知らないこと、世界には感動的なものがいっぱいあることを思い知りました。

幼稚園は、人生で最初の感動を味わう場所ではないでしょうか。大人が感じる感動とは少し違ってもいいかもしれません。しかし、子どもたちは心とからだ全体で初めてのものを受け止め、きっと心には大きな痕跡が残ることでしょう。小さい頃に経験した感動は、たとえ本人が経験そのものを忘れていても、その子の将来の可能性を大きく広げているように思います。これからもたくさんの感動が与えられることを願っています。

チャプレン 司祭 下澤 昌